

夢のつづきは、ここから。

Hello we are NVLU

夢のつづきは、ここから。

日本獣医生命科学大学報 Vol.73

定年退職者からのメッセージ 刻んだ時を振り返る…

これまでニチジュウの教育活動に尽くされた教員の皆様をご紹介。
教員生活を振り返っていただきました。長い間ニチジュウを支えてくださり、ありがとうございました！

——先生は34歳でアメリカに留学されたんですね。いかがでしたか？

獣医学分野では先駆けとなる「遺伝子」について勉強してきなさいと言うことで、当時3年目の若手教員が留学することはなかったので大変だったけど、その後、若い先生が留学に行くことも根付いて、留学に行っても意味があったと思います。

また、研究が実を結び大きな研究事業(私立大学学術研究高度化推進事業・ハイテクリサーチセンター整備事業や学術フロンティア推進事業)にも取り組むことができました。

——とても大きな研究事業でしたね。

あのように補助金を受けて大きな研究事業ができたのは事務職員のおかげでもあって、当時の研究推進関連の課長さんたちには本当に感謝しています。

——教員生活の中での思い出の写真(ページ右上)について、エピソードを教えてください。

これはね、2014年6月にデンマークのコペンハーゲン大学で開催された第16回ISACPで学会の最高賞であるHeiner Sommer Prizeを受賞した時の写真。この分野のビッグネームに肩を並べることができた瞬間。また、2006年から連続して5大会で私たちのグループから最優秀ポスター発表賞を受賞することができ、チームの研究成果が世界的に認められて瞬間でもあり、努力

が報われた気がした瞬間でもありました。教員生活を振り返ってみると、英語の論文書いて、週末はサッカーしてたかな。1992年から2代目サッカー部顧問でした。

——サッカー好きなんですか？

地元川越のサッカーチームに33歳くらいまで所属して、そのあともサッカーをずっと続けていました。監督の資格も持ってやるよ。(※「監督証」を見せてくれる。)

ISACPの学会のメンバーもみんなサッカーが好きで、ワイン片手に一緒に観戦して…なかなか良かったですよ(笑)

——サッカーが研究の繋がりを一層強くしましたね！

定年退職後のご予定はありますか？

ISACPIに所属する先生に誘われて、スペインで共同研究する話があったのですが、コロナ禍で実現できそうにありません。まずは健康に過ごす。特に定職に就く予定はなく東京都獣医師会や民間の財団の理事として不定期で活動する予定です。あとは孫のお守り。

——最後に、学生や教職員へメッセージをお願いします。

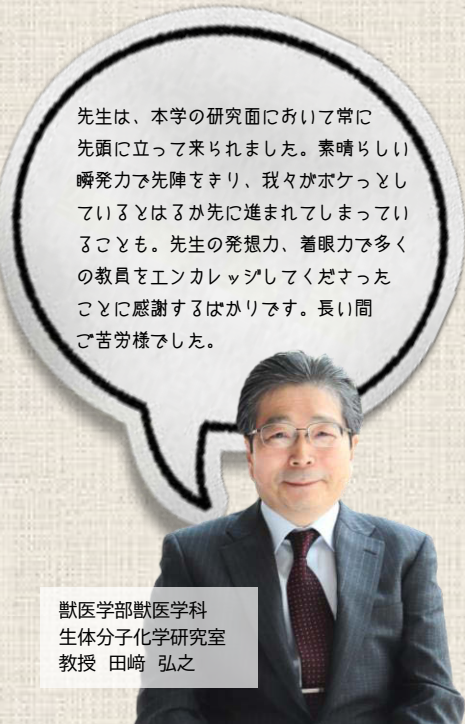
Fay ce qe voudra (汝の思うままになせ)を座右の銘として、35年間、自分のやりたい研究をやらせてもらい感謝しています。ただ、日本の獣医学教育、獣医療のレベルがアジアの10番くらい



2014年 ISACP学会にて
Heiner Sommer Prize(最高賞)を受賞

まで落ちているので、頑張ってトップクラスに返り咲いてほしいと思います。

——ありがとうございました。



獣医学部獣医学科
生体分子化学研究室
教授 田崎 弘之

(写真)研究に力を注いだ35年間。功績を讃える多くの賞状やトロフィーと。

新井 敏郎 Toshiro ARAI 獣医学部獣医学科 獣医生化学研究室 教授

【略歴】
1986年 3月(30歳) 日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科博士課程修了
1986年 4月(30歳) 日本獣医畜産大学 助手
1989年11月(34歳) ミシガン大学医学部 Postdoctoral Research Fellow(2年間)
2011年 4月(55歳) 日本獣医生命科学大学獣医学部長
2014年 6月(58歳) 国際獣医臨床病理学会(ISACP) Heiner Sommer Prize受賞
2016年 4月(61歳) 日本獣医生命科学大学大学院獣医応用生命科学研究所長
2021年 3月(65歳) 定年退職



——先生は東京大学理学部数学科を卒業後、日本医科大学(以下、日医大)に入学していますが、何がきっかけで医者になったのですか？

数学科の学生は、ほとんどが東京大学大学院を受けるんです。ですが受かる人はほとんどいません。私も院に落ちて、実家の青森に帰って飲まず食わずの生活をしていました。「大坂が死ぬかもしれない」と聞いた私の先輩が「医大を受けてみたらどうだ」と連絡くれたのがきっかけです。

——すごいきっかけですね…(笑)そして日医大を卒業し、そのまま付属病院に勤めた。

東京大学にいたときは数学者になりたかった。私は研究者になりたかったんです。病院に勤めて数年後、33歳の時にその機会がやってきて、助教として医学部の第一生理学に所属しました。

——夢だった研究者になり、どんな研究をされていたんですか？

20年ほどずっと「心臓突然死の前兆を見つける」という研究をしていました。この研究成果は多くの人に読まれています。残念ながら自動運転化の波が来て実用化はされなかったけれど、トヨタ、デンソーと共同開発した「運転中に心臓突然死の前兆を検知するシステム」を実装したプリウスを発表したりもしたんです。

——心臓突然死の研究をされていたが、途中で日医大から本学に異動されたんですね。

2008年に教授として異動してきました。第一内科の元主任教授の高野照夫先生が、私の恩師の早川弘一先生の意を組んで異動の労をとってくださったと後で知りました。

——ニチジュウでの13年間はどうか？

もともと好きだった数学を教えることができて、楽しかったですよ。特に獣医保健看護学科の学生は毎年ノリが良い子ばかりで、冗談にも付き合ってくれて、一番楽しかった。強いて言えば、教えるのは数学の“基礎”だったので、もっとマニアックなことも教えたかったですね。

——数学は奥が深いんですね。先生といえば、絵を描かれることも有名ですね。

この「風神雷神図-東京巴里之巻」は2017年の日本画府展で奨励賞を受賞しました。定年退職後も、見た人が元気になる「ビタミン絵画」を描き続けようと思っています。今年の6月には御茶ノ水のギャラリー(ART GALLERY 884)で企画「元気のでるビタミン絵画」を開催する予定です(会期:2021年6月3-6日)。

——その他にやりたいことはありますか？

独創的な面白い論文を書き続けたいですね。例えば、人の短期記憶力には限界があるかを数理モデルで説明した論文を書きましたが引用されてよく読まれています。「光速は一定である」はアインシュタインが提唱し、いまやだれも疑って

(写真)第二の人生を告げてくれる道標として描いた自身の作品とともに。



【略歴】
1979年3月(23歳) 東京大学理学部数学科卒業後、日本医科大学に入学
1985年5月(29歳) 当時の学年担任だった早川弘一教授のご媒酌で結婚
第一内科に入局
1994年9月(38歳) 上原記念生命科学財団助成金受賞後、
米国MIT(マサチューセッツ工科大学)に2年間留学
日本医大同窓会研究助成金賞
1996-1999年 福田記念医療技術財団研究助成金賞
日本医大医学会奨学賞受賞
2008年4月(52歳) 日本医大老人病研究所准教授から教授として
本学に異動し、現在に至る
2011-2013年 東京大学大学院数理科学科客員教授として講義担当
2021年3月(65歳) 定年退職

大坂 元久 Motohisa OSAKA 獣医学部獣医保健看護学科 獣医保健看護学基礎部門 教授

ませんが、「この世で光だけが特別なのはおかしくない??」という素朴な疑問から有名なE=mc2を確率的に変形すると光速が確率的に揺らいでいないかを検証する方法を見つけました。この論文もたくさんの人に読まれています。

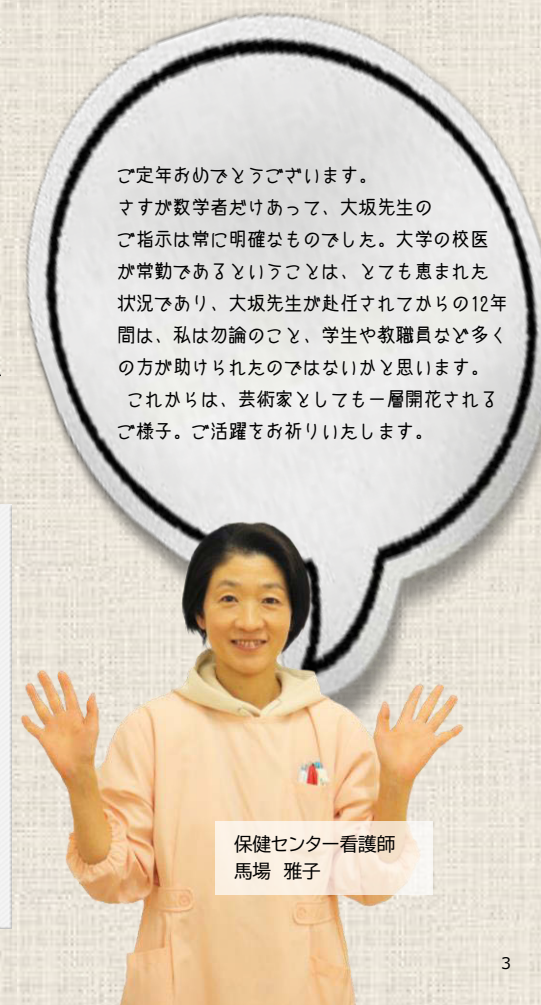
——な、なるほど…！最後に、学生や教職員へメッセージをお願いします。

中央線武蔵境駅から徒歩2分の、国内屈指の好立地にあることを活かし、さらに発展していったほしいですね。また、私の好きな言葉に「絶えず前進する」があるのですが、小さくてもいいから少しでも前に進んでほしいです。

——ありがとうございました！



保健センターにも大坂先生の絵が飾られています。



保健センター看護師
馬場 雅子



Photo album

——先生は大学をご卒業後、すぐ本学に着任されたので、約40年間ニチジュウひと筋でお勤めされていました。きっとこれまでにたくさんの思い出がありますね。

ハブニングを含めて本当にたくさんの思い出があって、ここでは話きれないね(笑)

——あえて挙げるなら、どんなことが印象に残っていますか？

獣医保健看護学科に来る前は、ずっと獣医学科にいました。そのとき、ちょうど宮田先生(獣医保健看護学科)が受けたときの国家試験だったかな？合格率がとても悪くて…大学にとってもすごくショックな出来事だった。その時、当時の学長が教育推進室を作って、室長をやるよう任命されたんだよ。それから5年くらい室長をやったことが一番の思い出です。

——具体的にどんなことをやられたのですか？

当時の卒業試験は解剖学なら解剖学、生理学なら生理学とそれぞれの科目で作っていたの。それを国家試験と同じような形式にしたことが大きかったかな。それから卒業試験合格のチャンスが多く作った。問題も、本番(国家試験)より難しく作ったり、普段と違う言い回しを使ったり色々工夫しました。



獣医学部獣医学科
獣医解剖学研究室
准教授 添田 聡

獣医学部獣医保健看護学科
獣医保健看護学応用部門
准教授 山本 昌美

——他にはどんなことをやられたのですか？
土曜学校を始めたことかな。(※土曜学校とは、獣医学科6年次学生対象に有志の専任教員と大学院生が行う国家試験対策の勉強会です)
獣医保健看護学科設立の時には、左向先生と一緒にカリキュラムを作って、とにかく学生の教育に従事していました。

——学生の教育に奔走していたのですね。教育活動だけでなく、部活動の顧問もたくさんやられているようですが…

レクリエーション部もJazz&Rock研究会も、27歳の時からずっとやっています。それから一時はラグビー部やバレーボール同好会(今は消滅…?)も学生から「やってくれ!」と頼まれてやっていたよ、名前だけだったけどね(笑)レクリエーション部は神野先生に、Jazz&Rock研究会は食品科学科の先生に引き継ぐことにしました。

——学生のために走り続けた40年でした。退職された後は、どんなことをされるのですか？

孫たちの世話でしょうか。4人いて、一番上が4月から1年生なのでまだまだ手がかかります。それから、ニチジュウには実習嘱託で時々来る予定です。

——定年後もまだまだやるのがたくさんですね!最後にメッセージをいただけますか？

歌って踊れる獣医師or動物看護師になってください。自分の意志で曲を選び、自分の意志で踊ってください。決して人に踊らされないように!なんでも自分の意志で行動できる人になってください。

——ありがとうございました!



【略歴】
1979年3月(23歳) 東京大学農学部農芸化学科卒業
1981年3月(25歳) 東京大学農学系研究科農芸化学専攻修士修了
1981年4月(25歳) 三菱化成(現三菱化学)に入社
1990年頃 会社に勤めながら論文博士を取得
1993~1996年 アメリカのベンチャー企業に出向
2007年4月(51歳) Molecuence社(バイオベンチャー)取締役 技術統括部長
2011年3月(55歳) Molecuence社を退社
2011年4月(55歳) 日本獣医生命科学大学 食品バイオテクノロジー教室 教授
2018年4月(62歳) 日本獣医生命科学大学応用生命科学部食品科学科長
2021年3月(65歳) 定年退職

渋井 達郎 Tatsuro SHIBUI

応用生命科学部食品科学科 食品バイオテクノロジー教室 教授

(写真) モーモーベンチと一緒に記念撮影。

——先生は大学ご卒業後、一般企業にお勤めされていますが、どんなことをされていたのですか？

これまでタンパク合成や創薬研究を行ってきました。そのまま博士を取る友人も多い中で、まずは働いて、自立することが大切だと思ったのでとにかく働きました。

——約30年ほど一般企業でお勤めされて、大学に教員として着任されたんですね。

本学に来る前に勤めていた会社は創業支援の会社だったのですが、あまり自分に合っていないと感じていて…。そんなとき獣医師の息子が仕事で辛そうで、「獣医の研究職はどうか」と思い、求人を見ていました。そこでたまたま「日本獣医生命科学大学」の文字を見つけて、食品科学科でバイオ技術を扱える人材を募集していることを知りました。あの時取った論文博士がここで役に立つとは思っていませんでしたね(笑)ちなみに結局息子はずっと同じ場所で勤めています。

——それから10年、一番印象に残っていることはなんですか？

着任したばかりの時、農産食品学教室の麻生先生(当時63歳)を訪ねたら、マイクロペット片

手に出てきました。着任する前の10年間くらいは部下に実験をしてもらっていたため、実験をしていませんでした。「大学でももう実験はやらないだろう」と思っていたのですが、年長の先生が実験をされていたので、びっくりしたのと同時に感銘を受けました。それ以来は自分も実験を行うようになりました。実験のアイデアがどんどん浮かぶようになってきて、定年間際の今も実験を続けています。

——先生は研究することが本当にお好きだったんですね。退職された後は、何かご予定はありますか？

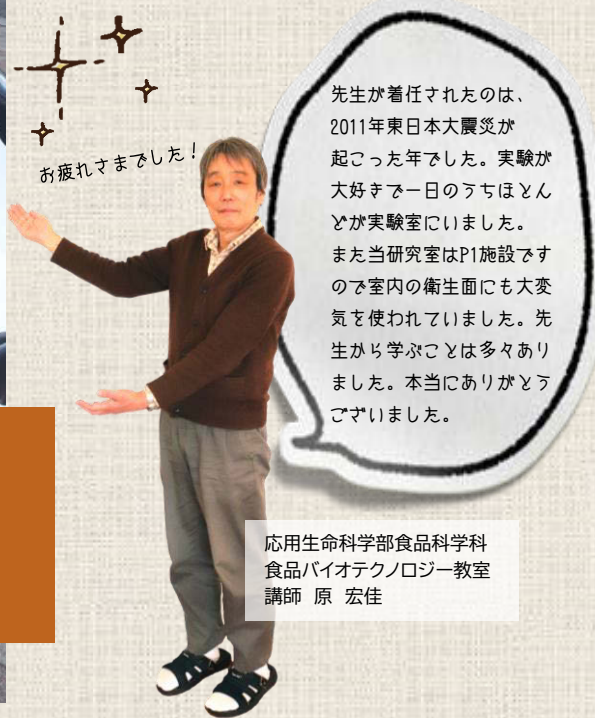
これからも研究は続けていきたいと思っています。それから、今はいかんせんコロナの影響で行くことになって到底できませんが、いつかアメリカの西海岸から東海岸まで、車で縦断したいですね。出向でアメリカにいたとき、西海岸からちょうど半分くらいまでは行ったので、その先に行ってみていいですね。

——ありがとうございます。最後に、メッセージをお願いします!

10年間ありがとうございました。学生、教職員の皆さんには、あまり小さなことにこだわらず、の



大学院学位記授与式で、生まれて初めてのガウン。まるでハリウッドの世界!



先生が着任されたのは、2011年東日本大震災が起こった年でした。実験が大好きで一日のうちほとんどが実験室にいました。また当研究室はP1施設ですので室内の衛生面にも大変気を使われていました。先生から学ぶことは多々ありました。本当にありがとうございました。

応用生命科学部食品科学科
食品バイオテクノロジー教室
講師 原 宏佳

ここだけの、こぼれ話

今回、定年退職される先生方の写真撮影は、思い出の場所やモノと一緒に撮影しました。「どこで撮影しましょうか？」と渋井先生に聞くと、「モーモーベンチで」とのこと。理由を聞いてみたところ、牛の後頭部が飼っている柴犬(豆柴)にそっくりだそうなんです!どうですか?似ていますか?



愛犬 めいちゃん

神谷 新司 Shinji KAMIYA

獣医学部獣医保健看護学科 獣医保健看護学応用部門 教授

【略歴】
1978年3月(23歳) 岐阜大学 農学部 獣医学科 卒業
1980年3月(24歳) 岐阜大学 大学院 農学研究科 修士課程 終了
1980年4月(25歳) 日本獣医畜産大学 助手
1982年頃 (27歳) レクリエーション同好会、Jazz & Rock研究会等の顧問
2007年4月(52歳) 日本獣医生命科学大学 准教授
2021年3月(65歳) 定年退職



(写真)教育活動に尽力!講義室にて。

旅立つ皆様へ

ここで日本獣医生命科学大学を卒業・修了を迎えた大学院生、学部生の皆さん、そして定年退職を迎える教職員の皆さんにメッセージを送りたいと思います。

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。また、ご家族をはじめ、関係者の皆さまには、心よりお祝いを申し上げますと共に、本学への日頃のご支援に対し、厚くお礼申し上げます。

昨年の中頃を振り返りますと新型コロナウイルス感染症の脅威の中、多くの学事を中止せざるを得ず、学位記授与式も中止という大変苦しい決断をいたしました。まだまだ気を緩めることは出来ませんが、今年はなんとか開催出来る運びとなりましたこと、安堵しておりますが、願わくばご家族の方々やご来賓、教職員と共に、ここに集って、祝うことを私たちも楽しみにしておりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いつもとは違う形で式を執り行うこと、ご容赦ください。私たちが悩ます新型コロナウイルス感染症は、またたく間に世界全体に広がり、経済や社会に大きな影響を与え続けています。その克服のゴールはまだ見え、収束に向けた様々な努力が続いています。国内外で、この感染によって多くの方々がお亡くなりになりました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りすると共に、ご家族の皆様へ謹んでお悔やみを申し上げます。また療養中の皆様には、一刻も早い快復をお祈り致します。

日本獣医生命科学大学もこの難局に対して、遠隔授業の導入や感染対策を徹底した授業の実施、ICTを活用した会議システムやオンライン相談の導入など、右往左往しながら大変ではありましたが、皆さんとともにこの難局に向き合い、粘り強く学業に勤しみ、こうして卒業というおめでたい日を迎えることができました。まさに日本獣医生命科学大学に集う全ての力の結集の結果であると、皆さんを誇りに思います。

さて、日本獣医生命科学大学を卒業する皆さんへのメッセージとして、私は本学の学生には生命科学を学ぶ学生としてその知識にふさわしい責任と義務を伴うことを自覚し、同世代の規範となる行動を取ることを、そして学問だけでなく、色々

な力、特に自立力を身につけることができるような教育を実施してまいりました。与えられるのを待つのではなく、自ら求め行動を起こし、まさに現在のような逆境をも我慢強く凌げる逞しさを身につけてほしいと、ことあるごとにメッセージを送ってまいりました。この考えは大学を卒業したあとも続きます。社会人として更なる自立力を身につけ、必ずこの難局を乗り越えていけるその一人となつてほしいと強く願っております。

今皆さんの心中を想いますとき、将来に対する期待に胸をふくらませると同時に、このコロナ禍における先行きの見えない不安に心を痛めていると思います。しかしここまで積み上げた皆さんの学業と自立力が必ず大きな力となって、自分の信じる道を歩んでいけると私は信じております。母校である日本獣医生命科学大学で学んだことを誇りとし、生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、希望に満ちた社会を切り開いていく人材として更に成長されますことを心から祈念いたします。

最後に、定年退職を迎える4名の先生方、新井先生、大坂先生、神谷先生、渋谷先生、定年退職おめでとうございます。祝福の言葉を述べましたが寂しい気持ちが溢れてまいります。一人ずつに言葉を送るには紙面では足りません。私は退職してからここまで、何が大事かと考えた時、やはり健康が第一であると確信しております。それは今なお身に染みて感じております。どうか健康に留意されながらも新しい、楽しい時間を過ごしてほしいと思います(私も故郷で農業を楽しむ予定です)。今後さらに、素晴らしい人生を心よりお祈りしながら、まだまだ、様々な形で引き続きご指導をよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月11日
日本獣医生命科学大学 学長

清水一政

大きく羽ばたけ、ニチジュウ生！



新型コロナによる制限や苦悩を乗り越えた経験を糧に、これからの人生を謳歌して下さい！

獣医学科担任 長谷川大輔



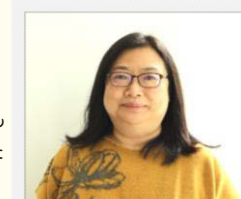
ご卒業おめでとうございます。これからも学びを深め、キャリアを積み重ねてください。

獣医学科担任 常盤俊大



皆さん、卒業おめでとう。春からの新しい生活に不安があると思いますが、失敗も成功もよい思い出になります。思い出をたくさん作ってください。

獣医保健看護学科担任 袴田陽二



卒業おめでとうございます。不安もあるかもしれませんが大きく羽ばたいてください。

獣医保健看護学科担任 水越美奈

2020年に最終学年を迎えた皆さん。新型コロナウイルスが猛威を振るい、例年とは違う学位記授与式となりました。今日、無事にニチジュウを卒業される皆さんへ、担任の先生からのメッセージを贈ります。



思ってもやらなかったことは実現できないが、本当にできない自分を自ら認めてやることも大事。

動物科学科担任 太田能之



ご卒業おめでとうございます。社会に出ると初めての経験がいっぱいです。柔軟な気持ちで乗り越えてください。

動物科学科担任 柴田昌宏



食品科学科で過ごした間に蓄えた知識と経験を糧に、健やかで豊かな人生を送ってください。

食品科学科担任 奈良井朝子



近くに来たときは、また元気な顔を見せて来てくださいね！

卒業おめでとうございます！

食品科学科担任 知久和寛

CONGRATULATIONS ON THE AWARD

各賞受賞者をご紹介。受賞者の皆様、おめでとうございます！

学長賞

在学期間を通じて学業成績が特に優秀で、かつ人物にも優れた者、各学科1名に与えられます。

獣医学科 江藤 由佳 さん
動物科学科 鈴木 円香 さん

獣医保健看護学科 鈴木 遼太郎 さん
食品科学科 浅田 ゆり さん

同窓会長賞

同窓会より、各学科の専門性を活かした分野に進み、かつ、成績も優秀で、後進の模範となった者に与えられます。

獣医学科 河西 晴子 さん
動物科学科 阿部 百花 さん

獣医保健看護学科 石田 悠華 さん
食品科学科 中村 日奈 さん

公益社団法人日本獣医師会褒賞

公益社団法人日本獣医師会より、獣医学教育振興の一助として獣医学系大学獣医学科を優秀な成績で卒業する者に与えられます。

獣医学科 木村 留華 さん

公益社団法人日本畜産学会褒賞

公益社団法人日本畜産学会より、在学中の学業に優れ、学部卒業後に大学院に進学し、畜産学会および畜産分野での活躍が期待される学生に与えられます。

動物科学科 服部 愛 さん

nichistagram

たくさんのありがとう

Related Hashtags: #ニチジュウを旅立つ皆さま #おめでとうございます! #20210311



14th_hippo



#15th #愛してる
#うちの後輩でありがと

卒業おめでとう! コロナに負けるな!



yuzuki3939



#4年間 #おつかれさまです
#HIPPO

卒業おめでとう! ずーっとだいすきです(´・_・`)



Jimu_nvlu



#事務部 #施設管理課
#渡邊さん #お疲れさまでした

お疲れ様です。大好きな趣味(バイク)を楽しんで
ください。お元気で。

vol.73表紙絵

鈴木七海さん(動物科学科4年次)



学位記授与式や定年退職の先生方の特集号と聞き、私自身も卒業するので、ニチジュウでの生活を振り返っている様子をイメージしました。動物科学科だけでなく獣医学科、獣医保健看護学科、食品科学科も描き、賑やかな様子に。細かいところにもニチジュウらしさを入れているので、探してみてください。



Hello, we are NVLU(ニチジュウ) - 日本獣医生命科学大学報-第73号(2021年3月号) 2021年3月11日発行

協力(以下敬称略)/教職員:新井敏郎 大坂元久 神谷新司 渋谷達郎 田崎弘之 添田聡 山本昌美 原宏佳 長谷川大輔 常盤俊大 袴田陽二 水越美奈 太田能之 柴田昌宏 奈良井朝子 知久和寛 馬場雅子 その他協力いただいた皆様ありがとうございました!

表紙/鈴木七海

編集・発行/日本獣医生命科学大学 IR推進委員会(編集委員)渋谷達郎 近江俊徳 野瀬出 知久和寛 高橋勝 大沼友美 上野美可子

印刷/デジタルブレンド株式会社